

目 次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	引き続き低調な粉乳相場	p. 2-3
■ バター情報	欧州バター 依然他主産地との価格差	p. 3-4
■ ホエイ情報	米国、欧州とも相場軟調続く	p. 4-5
■ カゼイン情報	NZ、欧州生産増により相場は軟調推移	p. 5
■ 乳糖情報	欧州産 米国産 とともに相場低調	p. 5-6
■ チーズ情報	Agropur 社が米国製造の全商品に対して rBST フリーを保証へ	p. 6
	中国チーズの関税削減	p. 6-7
	米国 CME(シカゴ)相場	p. 7
■ 国内情報	生乳生産量 14ヶ月連続前年割れ回避	p. 7-8
■ メルボルン駐在員情報	MGC 社買収完了に向けて Saputo 社の動き	p. 9-10
■ 米国駐在員情報	10月の主要 23州生乳生産量	p. 10
	10月の全米生乳生産量	p. 11
	9月の米国産脱脂粉乳、バター、チーズ、ホエイの輸出量	p. 11
	9月の米国産チーズ、バター、脱脂粉乳の生産量	p. 11
	9月の米国産ホエイの生産量と在庫量	p. 12
■ 主要生産国の現行乳価		p. 12
■ 出典		p. 13

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

■ 引き続き低調な粉乳相場

EU

ユーロ高米ドル安の為替のため、EU産脱脂粉乳は米ドル建て価格では大きな値下がりとはなっていないものの、元のユーロ建て価格では若干の下げとなっている。

脱脂粉乳のEU政府介入在庫は依然として重いにも関わらず、バイヤーの多くは既にクリスマス需要分は確保しているため引合いは乏しく、今後もしばらくは低調な相場の値動きが見込まれる。

11月21日に行われた介入在庫の売り入札においては、応札こそ約3万3千トンと大量であったものの、実際に落札されたのは40トンのみであった。次回売り入札は12月19日に予定されており、今回の結果を受けてどのような動きとなるのかが注目される。なお全体で約36万トンの介入在庫があるとされる中で、放出が始まった昨年の12月より落札された数量は今回落札された40トンを含めても220トンのみにとどまっている。

全粉乳価格はやや弱含みにて推移している。2017年1月～9月までのEUにおける全粉乳生産量は62万トンと、昨年同時期比2.6%増となった。生産量増の主な要因はEU域内での需要増加につられたものであり、輸出向けにおいては他地域産に比べて価格競争力で劣るため生産量増には寄与していない。EUの生乳生産量は引き続き好調を維持しており、9月は昨年同月比3.7%増となり、これで6月から4ヶ月連続、昨年同月比で増加となった。

オセアニア

オセアニアの脱脂粉乳価格は依然弱含んでいる。EUの脱脂粉乳在庫が積み上がっている事を理由に脱脂粉乳の国際相場が落ち込んだままであり、オセアニアもその影響を大きく受けている。

全粉乳価格においても同様。原因の一つとしては、世界最大の全粉乳輸出国であるNZにおいて、当初不調であると見込んでいた10月の生乳生産量が、天候改善により昨年同月比2.7%増と好調であった事にある。NZにおいて、生乳生産量ピーク時期である10月搾乳高は年間合計に大きく影響を与えるものとなるため、極めて重要となる。また豪州においても10月の生乳生産量は天候にも恵まれ非常に好調で、昨年同月比6.7%増であった。

最新のgDTの結果は下記の通り。

(2017年11月21日開催、同年11月7日比較)

脱脂粉乳：USD 1,701/MT FAS(船側渡し価格)、-6.4%

全粉乳：USD 2,778/MT FAS(船側渡し価格)、-2.6%

米国

米国においても、脱脂粉乳価格は国際相場の影響を受け、弱含みとなっている。

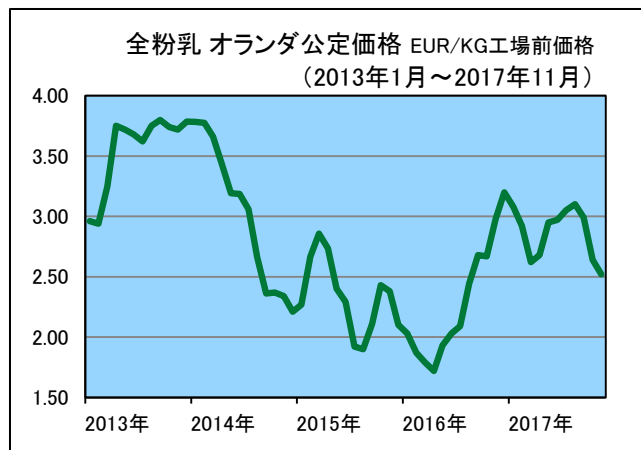
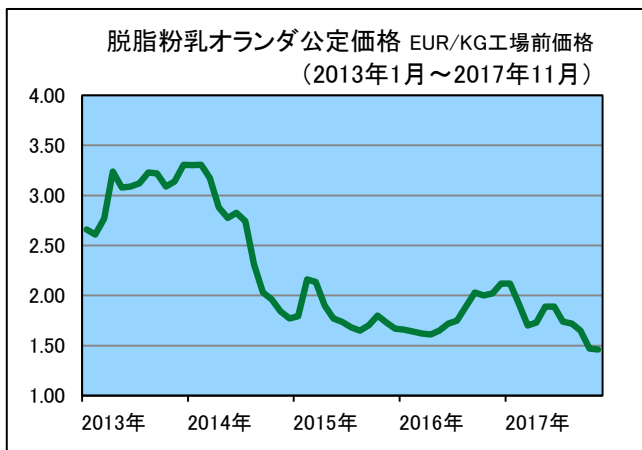
生乳生産量は好調であり、10月の生乳生産量は昨年同月比1.4%増であった。現在米国からの乳製品輸出量は自国の生乳生産量の17%ほどにとどまっているが、IDFA(国際乳製品協会)によると、米国生乳生産量の継続的な増加に伴い、今後10年程度でその輸出割合が20-22%までになるとの見方が示されている。

今後の展望

上述の通り脱脂粉乳、全粉乳ともに相場弱含みのなか、主たる乳製品供給元であるEU、オセアニア、米国それぞれの生乳生産量は好調に推移している。粉乳相場に大きな影響力のある中国の動向としては9月の脱脂粉乳輸入量は昨年同月比79%増、全粉乳に至ってはおよそ二倍へと輸入量が増えており、今後も同国からは目が離せない。但し世界的に見ると例年年末から年始にかけて需要は落ち着くのだが今年も同じ模様で粉乳相場は引き続き低調と考える。

現在の粉乳取引価格

EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 1,900 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT
EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,400 – 3,700/MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 1,900 – 2,200 /MT CFR ASIAN PORT
オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 3,100 – 3,400 /MT CFR ASIAN PORT
米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	: USD 1,900 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT



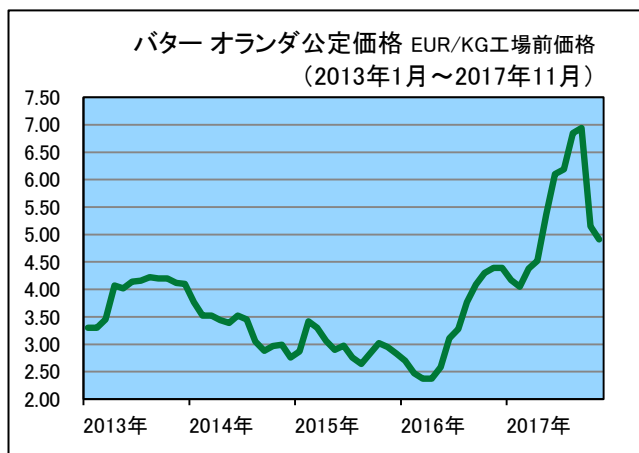
<中村>

■ バター情報

■ 欧州バター 依然他主産地との価格差

欧州

11月の途中から欧州バター相場が下げ止まってしまった。相場下落ストップの要因を、プロダクトミックスの観点から2つ挙げたい。1つは、昨今欧州乳業メーカーの多くはチーズ/ホエイ生産の組み合わせのほうで、バター/脱脂粉乳生産よりも利益を多く得られると考えており、結果、バター生産減少、供給がタイトになっているため。もう1つ推測されるのは、心理的要素の影響である。バターのバイプロダクトである脱脂粉乳の価格が長らく低迷しているが、これまではバター販売で相手の脱脂粉乳の安値を何とか補填できていたものが、バターがついに値下がりし始めたのにも関わらず脱脂粉乳は依然安いので、何とかバター価格を高値に押し止め利益減少を防ぎたいとの心理である。



オセアニア

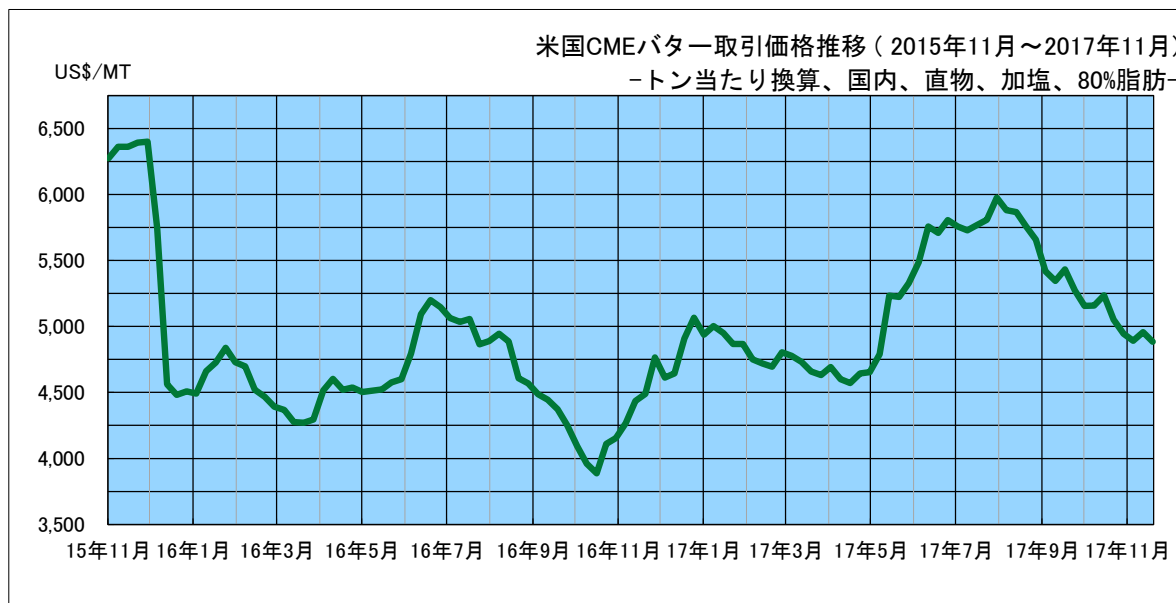
11月のGDTオークションは、AMFは横這い、バターは続落した。1回目のAMF平均価格はUSD6,894/MT FAS(船側渡し)と前回(2017年10月17日)比0.8%上昇、バター平均価格はUSD5,516/MT FASと前回比3.8%下落。2回目の平均価格はAMFがUSD6,887/MT FASで前回比0.1%下落、バターはUSD5,144/MTで6.7%下落した。

豪州ではバターの供給が一層タイトになっているようである。以前は脂質を控えるため、低脂肪牛乳が好まれていたが、今年に入り全乳の人気が高まっているとのこと。低脂肪乳の製造過程で生産されるクリームが減少したため、バターの製造も減少している。

豪州国内の不足分を補うため、輸入が増えている。豪州の、1～9月バター + バターオイル輸入量累計は、2万4千トンで、前年同時期と比べ、18%もの大幅増となっている。

米国

11月の相場は上下したものの、10月末時点と比べると、あまり大きく動いていない。1月から9月までのバター生産量累計は62万7千トンで、前年同時期比0.7%減と、僅かに下回っている。10月時点でのバター在庫量は約10万トン(前年同月比3.7%減)となっている。年末需要がまだ完了しないため、11月末時点ではさらに在庫量が減少すると思われる。



2017年11月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.19)

EU産バター価格	: USD6,600～USD7,000/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	: USD5,800～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	: USD6,500～USD6,800/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	: USD6,250～USD6,450/MT CFR ASIAN PORTS

<小瀬村>

ホエイ情報

米国、欧州とも相場軟調続く

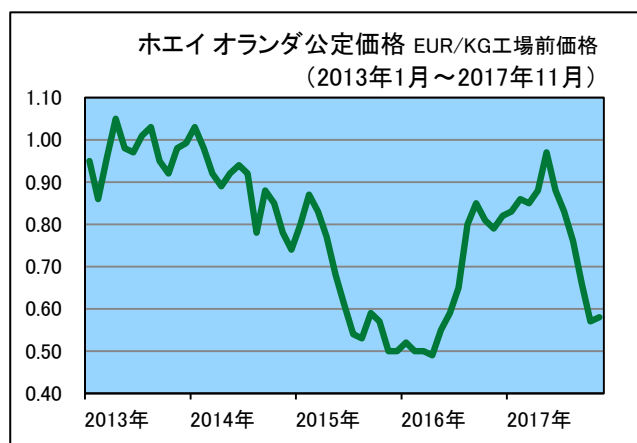
米国産ホエイパウダーの相場は前月同様、軟調傾向。チーズ生産好調につき、ホエイパウダーの供給も潤沢な状況。WPCの引き合いは限定的になっており、製造者の中ではWPC生産からホエイパウダー生産にシフトする傾向が続いている。また、ホエイパウダー在庫量を適正水準に戻すべく、価格を下げてでも成約を進めている製造者もいる模様。

NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、9月の食用ホエイパウダー生産量は4万6千トンで、前年同月比20.4%増。8月に続き前年対比20%以上の生産量を維持している。2017年1月～9月ホエイパウダー生産量は35万7千7百トンで前年同時期比9.6%増であった。

EU産ホエイパウダーの相場も引き続き軟調に推移している。チーズ生産が順調なのに加え、EU域内のホエイパウダー需要が伸長しておらず供給過多の状況が続いている模様。

米国産 WPC-34 の相場も引き続き弱含み。育児粉乳用途向けは在庫がタイトとなっている製造者もいる模様だが、食用グレードの WPC-34 の在庫は潤沢にある WPC 製造からホエイパウダー製造にシフトさせる動きが前月から続く中であっても、WPC の生産量自体は順調に推移している模様。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、2017年9月 WPC-34 の生産量は6,486トンで前年同月比7.3%増、前月比5.9%増。2017年9月末時点の米 WPC-34 の在庫量は1万478トンで前年同月比11.9%増、前月比1%増となっている。

<今野>



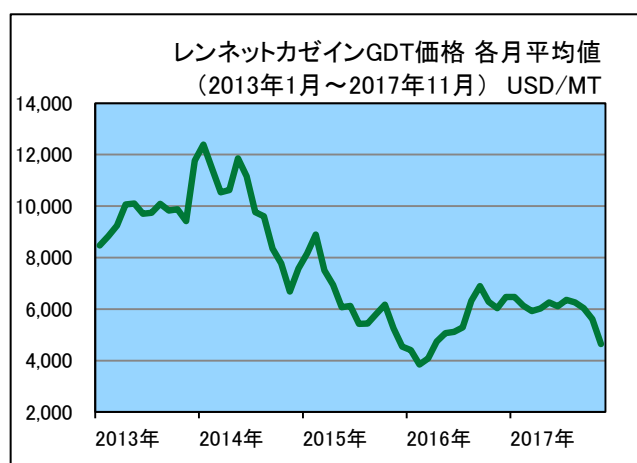
■ カゼイン情報

■ NZ、欧州生産増により相場は軟調推移

カゼイン相場は前月に引き続き低調。

NZでは、天候不良により9月の集乳量は落ち込んだものの、10月に入ると天候も回復し、今シーズンは昨年の集乳量を上回ると予想されている。NZの集乳量が伸びていることから、カゼイン生産は増加傾向。欧州においても、集乳量は順調に推移しており、脱脂粉乳の介入在庫も潤沢にあるため、脱脂粉乳生産からカゼイン生産へのシフトも続いている。

需要面においては、軟調な相場動向から、買いを控



レンネットカゼイン GDT 過去3カ月の落札価格

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年9月5日	USD6,316
2017年9月19日	USD6,036
2017年10月3日	USD6,123
2017年10月17日	USD5,612
2017年11月7日	USD5,465
2017年11月21日	USD4,644

えるユーザーも多く、引き合いは活発ではない。その為供給過多となっており、相場は続落。低迷する脱脂粉乳相場も大きく影響している。直近のGDT落札価格では、前回対比-12.6%の下降となり、大幅な値下げとなった。

今後も当面の間は、目立った価格上昇要因も見当たらず、脱脂粉乳相場低迷に引きずられ、カゼインの相場も低迷が続くものと思われる。伸びてはいない。

<渡辺(和)>

■ 乳糖情報

■ 欧州産 米国産 とともに相場低調

欧州

欧州産乳糖相場は、先月から大きな変動なく依然低調。EU域内でのチーズ製造は引き続き好調、原料ホエイ、乳糖の生産量も安定している。需要面では、EU介入在庫過剰の影響により、脱脂粉乳蛋白調整用途が相変わらず伸

び悩んでいる。

今後についても、冬の製菓向け需要が見込まれるものの、EU 介入在庫の水準を考えると、脱脂粉乳生産の伸びは考えにくく、蛋白調整用途での需要は限定的。一方で、チーズ生産好調により乳糖の生産増が予想され、引き続き相場は軟調に推移すると思われる。

米国

米国産乳糖相場は先月から状況は変わらず低迷している。供給面では好調な生乳生産、チーズ生産を背景に乳糖生産も伸びている。9月の生乳生産は引き続き好調で昨年対比1.1%増、チーズ生産量も国内外の需要に支えられ昨年対比

米国からの乳糖輸出量(2017年1月～9月)

1. 中国	47,669 トン
2. 日本	34,794 トン
3. メキシコ	30,764 トン
4. ニュージーランド	25,627 トン
5. オーストラリア	12,805 トン
6. シンガポール	13,720 トン
7. インド	12,115 トン
輸出量総計	263,395 トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2017年9月)

乳糖生産量	43,182 トン	前年比 0.3%増
月末在庫	69,445 トン	前年比 23.3%増

国別乳糖輸入量: 10月時点での累計(単位/トン)

	2016年	2017年	(%)
オランダ	5,839	6,185	6
フランス	1,550	1,347	-13
ドイツ	10,067	14,310	42
カナダ	2,622	2,665	2
米国	38,175	36,539	-4
豪州	0	0	-
ニュージーランド	2,885	2,801	-3
その他	1,136	1,681	48
合計	62,274	65,528	5

2.7%増、乳糖生産量についても昨年対比 0.3%増となった。また、米国内在庫は昨年対比 23.3%増と高い水準である。需要面では、クリスマスやスーパーボウルのシーズンが迫り、本来であれば需要が高まる時期であるが、今後の更なる価格下落を見越して様子見をする需要者も引き続きみられる。

今後については、WPI などの高タンパク製品及び乳糖の生産を減らし、ホエイパウダーへの生産をシフトする動きも一部で見られており、乳糖在庫も徐々に減少していくと思われる。しかしながら、急激な在庫減少は考えにくく、EU 産との価格競争が予想されることから、こちらも引き続き相場は低調なままと予想する。

<柴崎>

■ チーズ情報

Agropur社が米国製造の全商品に対してrBSTフリーを保証へ

カナダに本社を置く大手乳業会社 Agropur 社が米国で製造している全商品の rBST フリーを保証することを発表した。保証開始時期は 2018 年 1 月 1 日製造からとなる。米国内外で rBST フリーに対する要求が高まっており市場のニーズに答えるため今回の決断に至ったとのこと。

Agropur 社は 2014 年に旧 Davisco 社を買収し、米国内では現在 7 工場を稼働している。日本向けには 旧 Davisco 社の Jerome 工場から主にストレッチタイプのモザレラチーズを輸出しており、rBST フリーを保証することで、一層日本市場の品質基準に答えることが出来るとしている。

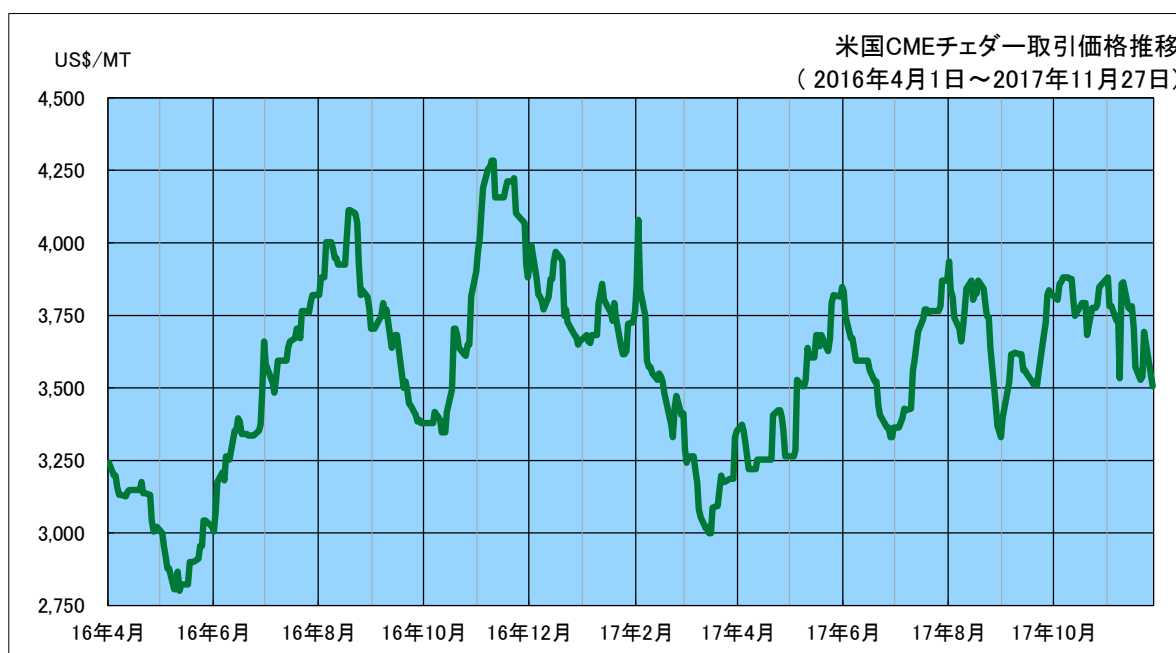
中国チーズの関税削減

中国財務省は 2015 年より開始の消費者需要に合わせた「合理的輸入増」の一環として、チーズやソーセージ等の食品及び健康食品、靴等の輸入関税を平均で 17.3%から 7.7%に削減した。チーズにおいては関税を 12%から 8%に削減。おろし及びパウダーチーズ(HSコード 0406.20 00)の同国の輸入量は年間約 130 億円にのぼり、FTAを結んでいるニュージーランドのシェアが 3 分の 2 を占めるが、その他には米国、EU から輸入している。プロセスチーズ(HSコード 0406.30 00)の輸入量は約 83 億円にのぼり、シェア 1 位はニュージーランド、次いで EU、米国、オースト

ラリアからの輸入である。ブルーチーズ(HSコード 0406.40 00)の輸入量は約116億円にのぼり、シェア1位はオーストラリア、次いでEU、ニュージーランド、米国からの輸入である。ブルーチーズの関税は15%であったが8%に削減された。チーズの他にも一部乳製品では関税が大幅に削減されている。

米国CME(シカゴ)相場

2017年11月のCMEスポット相場は10月末のUSD3,800/MT台から下降を続け、11月27日時点でUSD3,417/MTまで下落した。



<齊藤>

国内情報

生乳生産量 14ヶ月連続前年割れ回避

生乳生産

農林水産省が発表した2017年10月の全国生乳生産量は60万688トンで前年同月並みとなった。全国が生乳生産量が前年割れとならなかったのは14ヶ月ぶりとなる。地域別では、北海道が32万5,251トンで前年同月比1.8%増となるも、都府県は、27万5,437トンで2.0%減となった。北海道の生乳生産量は2ヶ月連続で前年同月比プラス。ホクレンが11月14日に発表した速報値によると、11月上旬の生乳受託乳量は、10万866トンで前年同月比2.3%増となり、今年最大の伸び率となった。伸び率の要因は、昨年が振るわなかった反動があげられる。

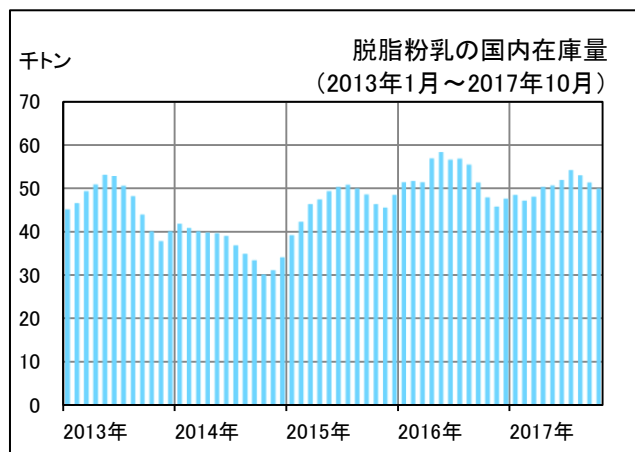
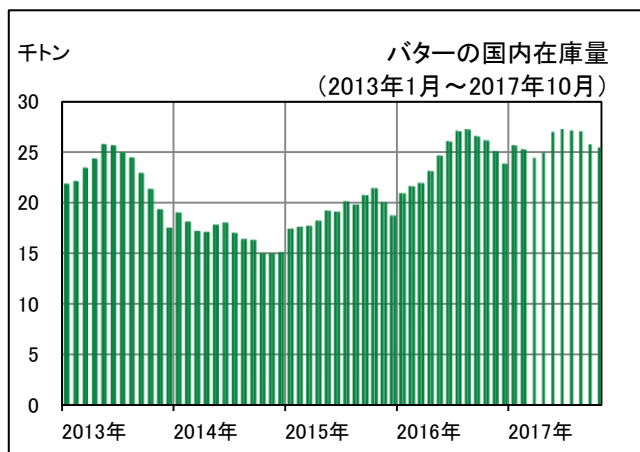
バター

農林水産省が発表した2017年10月のバター生産量は4,170トンで前年同月比3.8%増、在庫量は2万5,478で前年同月比2.9%減となった。バターの在庫量は14ヶ月連続で前年同月比マイナス。農畜産業振興機構(ALIC)の需給予測によると、バターの在庫量は11月末の時点で2万3,200トン、前年同月比15%減と大幅な減少となる見込み。昨年は、ALICのバター売り渡しが遅かったことなどを背景に過去5年で最も在庫量が多い年であったが、今年の在庫量はそれに続き2番目に高い水準のため、需給に大きな問題は発生しないと見込まれている。ALICは16日に2,000トンのSBS入札を実地。落札数量は、1,655.0トンで落札率は83%となった。売渡結果の落札平均価格は1,012,555円/トンで、前回10月19日に実地された入札と比べ7.5%程度上昇している。

脱脂粉乳

農林水産省が発表した2017年10月の脱脂粉乳生産量は8,917トンで前年同月比12.7%増、在庫量は5万116トンで前年同月比4.4%増となった。在庫量増加の要因は、夏から秋にかけての天候不順により、アイスクリームなどの消費が振るわなかったことが挙げられる。しかしながら、こういった状況は一過性のものとの見方が強く、脱脂粉乳は年明け以降も厳しい需給となることが見込まれる。ALICが実施する輸入脱脂粉乳の入札では、10月26日の競争率は2.5倍、直近の11月9日も1.2倍と、年明け以降を見据えた旺盛な買付けが続いていると言えよう。脱脂粉乳を原料とする発酵乳は、堅調な売れ行きとなっており、2018年度の輸入枠については、2017年度当初枠の1万3,000トンにさらなる乗せが必要との声もあがっている。農林水産省は、18年1月にも輸入枠の方針を決定するとみられており、状況を注視する必要がある。

<土屋>



生乳生産量

(単位:千トン)

	生乳生産量	用途別内訳			
		牛乳等向け	乳製品向け		その他
			内業務用		
2017年10月	601	347	31	249	4.2
前年同月比	100.0%	99.2%	111.0%	101.4%	92.2%

2017年度、バターの需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,762	91.4%	15,614	99.2%	27,329	104.5%	4.6
第2四半期	12,598	87.6%	15,365	110.3%	27,062	101.7%	4.6
第3四半期	13,070	94.2%	25,732	104.6%	23,000	96.3%	3.9
第4四半期	17,600	103.6%	20,322	123.9%	25,478	104.1%	4.3
合計	60,030	94.4%	77,033	109.0%	25,478	104.1%	4.3

※在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2017年度、脱脂粉乳の需給予想

(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.4
第2四半期	25,272	92.9%	35,887	97.2%	53,085	103.3%	4.3
第3四半期	28,517	95.6%	38,502	108.3%	46,600	97.8%	3.8
第4四半期	34,100	103.7%	36,584	103.5%	50,116	104.0%	4.3
合計	120,533	97.6%	147,616	104.6%	50,116	104.0%	4.3

※在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

■ メルボルン駐在員情報

■ MGC社買収完了に向けてSaputo社の動き

既報の通り、カナダ大手乳業会社 Saputo 社が MG 社の買収を完了させるべく動いており、今回の買収による乳業界及び日本向けの商売に関する影響に注目が集まっている。

今回の買収競争については、最終的に Saputo 社が 13 億 1,000 万豪ドル(約 1,113.5 億円)で買収を決めたものの、買収に手を上げていた他の候補 11 社の内 7 社については提示した買収金額は Saputo 社のものよりも大きく上回るものであった事が業界紙で報道されている。最後まで候補と取り沙汰されていた Bega 社については 12 億 5,000 万豪ドル(約 1,062.5 億円)の提示であった模様で、総合的に判断してこれ以上の金額を提示する事を断念したと思われる。TasAsiaDairy-Shanghai Pharma 社(豪州と中国資本)が 17 億 5,000 万豪ドル(約 1,487.5 億円)、Yili Dairy 社(中国上場乳業会社)は 16~17 億豪ドル(約 1,360.0~1,445.0 億円)、Mengniu/COFCO/Danones 社(中国企業)は 15 億豪ドル(約 1,275.0 億円)+その他投資金額、Fonterra 社(NZ 乳業会社)は 15 億万豪ドル(1,275.0 億円)、Wilmar 社(シンガポール企業)は 16 億豪ドル(約 1,360.0 億円)、China Resources 社(中国国営企業)と Bright Foods 社(中国国営企業)についてもそれぞれ同じく 16 億豪ドル(約 1,360.0 億円)の提示金額であった事が報道されている。

MG 社が最終判断をした要件としては、FIRB(外国投資審査委員会)の承認遅延による別問題発生への危惧、また ACCC(豪州公正取引委員会)が指摘する競争に係る問題についても考慮した模様。中国系の企業については FIRB や豪州政府の承認を得るのに時間がかかる事を MG 社は懸念した模様で、MG 社としては早急に関係を決める意図があったものと思われる。Fonterra 社に関しては、ACCC が指摘する独占禁止法に抵触する事を懸念した事と、Fonterra 社の提案が資産売却ではなく完全な合併という事も最終決定に至らなかった理由と思われる。

Saputo 社は MGC 社買収を 12 か月以内に完了する予定。また現在の MGC 社の集乳量に関しては 2015 年の約 350 万トンから今シーズン着地は 170~186 万トンと予想しており、この 18 か月で今までの集乳量の半分を失っている事を Saputo 社として初めて認めている。また MG 社の会社名及びそのブランド名は残すこととしており、MG 社の牛乳、チーズ、バター、クリーム、粉乳など主要な製品は継続するものの、中国向け育児粉乳や個包装粉乳については終売を示唆している。Saputo 社は MG 社 7 工場と WCB 社の運営は完全に分けて管理するように発言しており、既存の MG 工場の扱いについては Rochester 工場の売却なども含めて現在検討が続けられている模様。Saputo 社は今後の MG 社の再建には自信を見せており、高い乳価を提示して酪農家からの信用を取り戻し、年間集乳量を約 250 万トンまで戻す事を最優先事項としている。

メディアの推測ではあるが、ACCC が Saputo 社に対して VIC(ヴィクトリア)州西部に位置する Koroit 工場を売却するように指導する可能性がある事が報道されている。VIC 州西部には WCB 社がある為、Saputo グループが独占して同エリアの集乳競争は激減する事が問題としている。Saputo 社としては、同エリアでは Fonterra 社、Lion 社、Parmalat 社、Australian Dairy Farmers 社、Union Dairy 社などが集乳しており、十分な集乳競争は継続できると主張すると思われる。万が一 Koroit 工場を売却する場合は、Bega 社が買収に手を上げる可能性が高いと噂されている。Saputo 社幹部は 11 月中旬に酪農家回り、及び MGC 社主要工場を視察している。Kiewa 工場の牛乳製造設備は同エリアの乳業会社に売却したものの、クリームチーズ製造については継続して Kiewa 工場にて製造する可能性が出てきている模様。Cobram 工場へクリームチーズ製造設備を移管する話も出ていたが、移管するにしても多額なコストが発生してしまう為、Saputo 社として今後の判断が迫られる。また同工場で製造している Danone 社との JV のヨーグルト製品については、Saputo 社としては継続する事に興味を持っているように業界紙では報道されている。注目の Rochester 工場に関しては、現時点では工場閉鎖の方針は変わらない模様。今後も Saputo 社の MGC 社工場に関する検討が行われると思われ、引き続き動向が注視される。

注) 1 豪ドル = 85 円換算

豪州VIC州の降雨量 2017年11月27日 (mm)

単位:百万リットル

	11月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	41.8	33.2	40.2	+4.0%
Warrnambool (西部)	59.4	43.6	51.5	+15.3%
Bairnsdale (東部)	19.4	56.8	80.4	-75.9%
Albury (北東部)	51.6	49.6	62.7	-17.7%
Melbourne	45.8	43.0	60.3	-24.0%

NZ主要都市の降雨量、2017年10月 (mm)

単位:百万リットル

	10月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	N/A	111.4	85.7	N/A
Taranaki (北島)	56.2	98.4	113.0	-50.3%
North Canterbury (南島)	69.0	66.8	54.0	+27.8%
Southland (南島)	59.1	136.4	96.0	-38.4%

豪州生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年9月の生乳生産(前年同月比)	2017年7月～累計(前年同時期比)
NSW	99.5 (-3.5%)	293.4 (-0.1%)
Victoria	582.3 (-1.3%)	1,512.4 (0.8%)
Queensland	35.8 (-6.8%)	108.0 (-4.1%)
South Australia	50.1 (+17.8%)	128.5 (+12.7%)
Western Australia	33.4 (-0.9%)	95.4 (-1.9%)
Tasmania	78.0 (+1.5%)	143.4 (+0.7%)
Australia	879.1 (-0.6%)	2,281.0 (+1.0%)

ビクトリア州の地域別生乳生産量

単位:百万リットル

	2017年9月の生乳生産(前年同月比)	2017年7月～累計(前年同時期比)
東部	209.6 (+2.6%)	485.6 (+2.2%)
北部	175.7 (+1.5%)	444.2 (+3.8%)
西部	197.1 (-7.3%)	582.5 (-2.0%)
ビクトリア州全体	582.3 (-1.3%)	1,512.4 (+0.9%)

<松本>

■ 米国駐在員情報

10月の主要23州生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると10月の主要23州の生乳生産量は758万1,800トンで前年同月比1.5%増となった。先月発表の9月の生乳生産量は前年同月比1.1%増の735万4,800トンに修正された。主要23州における10月の一頭当たりの平均搾乳量は約870キログラムで前年同月を約5.9キログラム上回り、2003年に統計データを取り始めて以来10月単月の数字としては過去最高となった。主要23州における10月の平均乳牛頭数は874万頭と発表され、前年同月比6万7千頭増となったが、前月比では1千頭減となった。

10月の全米生乳生産量

2017年10月の全米生乳生産量は808万1,200トンで前年同期比1.4%増となった。全米の一頭当たりの平均搾乳量は約860キロで前年同月を約5.4キロ上回った。また、全米平均乳牛頭数は940万頭と発表され、前年同期比では6万5千頭増となったが、前月比では1千頭減。

2017年10月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,477,316トン	-1.5%	(-23,154トン)
ウィスコンシン州	1,156,792トン	+2.3%	(+26,332トン)
ニューヨーク州	562,506トン	-0.1%	(-454トン)
アイダホ州	562,506トン	+0.2%	(+908トン)
テキサス州	441,742トン	+5.3%	(+22,246トン)
ミシガン州	423,582トン	+3.4%	(+13,620トン)
ペンシルバニア州	407,692トン	+0.7%	(+2,724トン)
ミネソタ州	370,464トン	+2.9%	(+10,442トン)
ニューメキシコ州	298,732トン	+1.2%	(+3,632トン)
ワシントン州	248,792トン	-0.5%	(-1,362トン)

9月米国産脱脂粉乳、バター、チーズ、ホエイの輸出量

9月の米国産脱脂粉乳の輸出量は、2016年3月以降で最も低い水準となる4万315トンに留まり、前年同月比では19.5%減となった。最大の輸出先であるメキシコ向けが前年同月比4.2%減となった。

バターについても相対的に価格競争力が出てきているにも拘わらず、メキシコ、カナダ向けの輸出が落ち込んだ事を背景に、9月の輸出量は1,180トンに留まった。対照的に、9月の米国のバター輸入量は前年同月比67.9%増の3,223トンとなった。

9月の米国産チーズの輸出量は、前年同月比22.6%増の2万6,877トンとなった。

9月の米国産ホエイパウダーの輸出量は、前年が極端に少なかった事もあり、前年同月比20.6%増の1万8,387トンとなった一方で、WPCの輸出量は前年同月を22.8%下回っている。

9月の米国産チーズ、バター、脱脂粉乳の生産量

9月の米国産チーズの生産量は46万356トンとなり前月比で1.8%増、前年同月比では2.7%増となった。特にアメリカンタイプチーズの生産量増加が顕著であり、9月の生産量は17万8,876トンで前月比2%増、前年同月比4.2%増となった。モザレラチーズの生産量も前月比2.8%増の15万1,636トンとなり、前年同月の水準を0.2%上回った。2017年1-9月累計の全米チーズ生産量は前年同期を2.9%上回っている。

9月の米国産バター生産量は季節的な要因もあり前月比6.2%増の6万1,199トンとなったが、前年同月比を0.3%下回る結果となった。2017年1-9月累計の全米バター生産量は前年同期を0.3%(約1,816トン)下回っている。

9月の米国産脱脂粉乳(SMP/NDM)の生産量はSMPの生産量が大幅に減少した事もあり、前月比6.6%減、前年同月比0.1%減となった。NDMの生産量は前月比1.8%増の6万564トンとなり、前年同月比では6.2%増となった。一方、SMPの生産量は対照的に2015年9月の生産量1万2,167トンに次ぐ低い水準となる1万3,802トンに留まった。

当然のことながらも、9月のNDMの在庫水準は前月比2.6%(3,723トン)増の14万5,779トン増となり、前年同月の水準を49%上回る大幅増となった。

9月の米国産ホエイの生産量と在庫量

9月の米国産ホエイパウダー(食用)の生産量は前根同月比20.4%増の4万678トンとなり、7月、8月に引き続き非常に高い水準を維持している。しかしながら、需要が減退している事を背景に在庫は増加しており、9月末時点での在庫量は4万7,670トンに達し、前年同月の約2倍となる記録的な高水準となった。

メーカーは、ホエイパウダーからWPC、WPIの製造にシフトする動きを見せている。9月のWPI(蛋白90%以上)の生産量は、前年同月比13.7%減となり、過去13カ月間において初めて前年同月の水準を下回った。9月のWPC(蛋白50-89.9%)の生産量は前年同月比4.2%増となったが、2017年3月以降では最も低い前年同期比での伸び率となった。9月末時点の在庫量は、前月を僅かに下回ったものの、依然として前年同月を22.3%上回る高い水準となっている。

<佐藤>

主要生産国の現行乳価

	円換算乳価 ^{※1}	適用期間	直近の乳価
日本	¥98.33/㍓	2017年9月	¥95.37/kg ^{※2}
ドイツ	¥52.31/㍓	2017年9月	EUR38.44/100kg
オランダ	¥57.25/㍓	2017年8月	EUR41.75/100kg
アイルランド	¥51.67/㍓	2017年10月	EUR37.68/100kg
米国	¥45.82/㍓	2017年8月	USD18.00/100ポンド(100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥36.15/㍓	2017/18年度	AUD5.50/kg MS(乳固形kgあたり)
NZ	¥40.71/㍓	2017/18年度	NZD6.75/kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。
為替レート: EUR=¥132.00 / USD=¥112.00 / AUD=¥85.00 / NZD=¥78.00

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構
EU : European Commission
米国 : CLAL
豪州 : Murray Goulburn HP
NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先：
株式会社ラクト・ジャパン
webmaster@lacto-japan.com

出典：
 AGRA EUROPE 各誌
 Dairy Dairy Report
 Dairy Industry Newsletter
 農畜産業振興機構“畜産の情報”
 AMS Dairy Market News
 日刊酪農乳業速報
 Rice Dairy
 NZ Herald
 Stuff.co.nz
 食品産業網
 Weeklytimes
 USDEC Export Trade Data
 Global Trade Information Service
 USDA's Dairy Market News
 Australian Financial Review
 食品産業サイト
 経済日報
 東方ネット
 長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。